

# 全 仙

ZENBUTSU

J A P A N  
B U D D H I S T  
F E D E R A T I O N

仏暦2567年7月  
[2024年]

No.662

特集

令和6年能登半島地震から半年  
～被災地は今～



第36期理事長・事務総長就任挨拶 ..... 3

特集

令和6年能登半島地震から半年 ~被災地は今~ ..... 4

特集2

仏教教団が「過疎問題」とむきあうために ..... 12  
~教団の垣根をこえた取り組みの重要性~

暑中協賛 ..... 16

本会からの報告 ..... 26

- ・第42回理事会報告
- ・第43回理事会報告
- ・第36期事務総局人事
- ・第36期関西支局人事
- ・「賛助会員」新規入会者一覧
- ・「救援基金」寄附者一覧

<表紙写真> 曹洞宗大本山總持寺祖院(石川県輪島市)の山門脇の回廊(令和6年5月14日撮影)

第36期理事長就任挨拶



全日本仏教会理事長  
池田 行信

このたび、第36期理事長を拝命いたしました池田行信でございます。職責を全うできるよう努力してまいる所存でございます。

今日、仏教界を取りまく環境は、少子・高齢化、過疎化、さらに人口減少が進み、その組織基盤は脆弱化するとともに、過疎地と都市部の寺院間の格差が拡大しています。こうした仏教界を取りまく環境を見ずえる時、持続可能な宗門組織の構築が喫緊の課題となります。しかし、そのための議論や施策が、単に宗門組織の護持や経営的な視点からの議論や施策だけでは、多くの国民からの支持を得ることは困難に思います。仏教の現代的意義の再発見に基づいた議論と施策が必須です。

その意味において、今日の仏教界には、①国内外の檀門信徒及び不特定多数の方々のニーズを把握するとともに、②信仰上の連帯感を具現化する議論と施策、そして③課題解決に向け不特定多数の方々との課題の共有、さらに④ジェンダー平等や多様性のある社会を目指した、変革のための原理と行動も要請されましょう。

当面する仏教界の現状を踏まえ、困難な課題に立ち向かうべく、皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます、就任の挨拶いたします。

第36期事務総長就任挨拶



全日本仏教会事務総長  
和田 学英

令和6年6月19日に開催された第43回理事会において、曹洞宗より理事候補者に推薦いただき、第36期理事・事務総長に就任いたしました。全日本仏教会105の加盟団体(59の宗派、37の都道府県仏教会、9の仏教団体)、賛助会員やご縁ある皆さまのお力を頂戴し、また事務総局と関西支局の職員と共に智慧を出し合い、創意を廻らせ日本の伝統仏教界における唯一の連合組織として、滄桑の変に対応してまいりたく存じます。

本会は、仏陀の「和」の精神を基調に、広く社会に向けて仏教文化の宣揚と世界平和に寄与することを目的としています。平成30年の世界仏教徒会議日本大会において、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の支援を宣言し、その具現化に取り組んでいます。

今、世界各地で自然災害が頻発しています。それらの一刻も早い復旧を念じ、今後も多岐にわたり支援に努めてまいりたく、皆さまの暖かい物心両面のお支えを切にお願い申し上げます。

本会の運営の中心となる評議員会・理事会、審議会・委員会や代議員会議をはじめとする諸活動が無事円成出来ますよう、深いご理解とご教示を冀い、就任の挨拶いたします。

## 令和6年能登半島地震から半年

## 被災地は今

元日に発災した能登半島地震からおよそ半年が過ぎました。被災地の復興がままならない一方、報道などで現地の実情を知る機会は減りつつあります。被災地に注がれる目が再び増えることを願って、本号では5月ならば、現地で活動する方々にお話しをうかがいました。

最初は、七尾にある真宗大谷派・能登教務所の竹原了珠所長です。真宗大谷派は北陸地方に多くの寺院と門徒さんを抱え、この度の地震で大きな被害を受けました。

続いては、「シヤンティ国際ボランティア会」の茅野俊幸師と宮下杏里さんです。もともと「曹洞宗東南アジア難民救済会議」として発足し、現在は世界各地で人道支援に取りくむ同会は、總持寺祖院のある門前町の「禪の里交流館」を拠点に復興支援活動に取り組んでいます。



一人でも多くの方に能登の現状を知っていただき、支援の輪を拡げていただけますようお願い申し上げます。

## 真宗大谷派 能登教務所

――まず、1月1日に発災してからの竹原所長と真宗大谷派の動きをお聞かせください。

発災した時、私はすぐに珠洲の教区会議長に連絡しました。去年も一昨年も珠洲で地震があったので、おそらく今回もそうだと予測しました。しかし去年この七尾で感じた揺れよりかなり大きかったです。珠洲は大変だろうと思って電話したんです。その時はまだ電話が使えませんでした。本堂はどうですかと。ちよつと見てくると議長が言われたので一回切ったんです。間もなく本震が来て、その後、連絡が途絶えました。

じませんでした。去年一昨年の地震があったので、大谷派として能登教区の緊急連絡先、メールアドレスやLINE連絡網の構築を今年やろうと言っていたんです。しかし、それがまったく準備できていない中で今回の地震を迎えてしまいました。そもそも発災したら、教区に災害救援本部、その下に各組の本部が設置されることになっていました。しかし、能登教区353カ寺のほとんどが被災した未曾有の被害でそれができない。これは初めてのこと、本山と連携をとりながら、我々職員が主体的に動いていかなければならない状況でした。私自身も2日まで避難所にいました。そこから本山と連絡して、2日には本山に災害救援本部、同日に現地にも本部が設置されました。しかし、七尾にあるこの能登教務所は、水が途絶え、通信網が遮断されていたので、金沢教務所に設けることになりました。

職員には、2日に可能な人は来てくださいます。その中に能登教区の人が3人いたのは幸いでした。そうして体制を組み始める中、本山の東本願寺の派遣隊が3日に出発して、4日にはこちらに入りたいた。この第一陣は、トラックと公用車で京都から物資を持ってきて、途中、いろいろな避難所に置いてくることになりました。今までの災害でも、大谷派の門徒さんが多い所も少ない所もありましたが、能登はほとんどが門徒さん、あるいは真宗寺院と深い関係がある方ですから、門徒か否か関係なく、すべてが支援の対象ということをお本山に了解いただきました。

本山隊が物資を届けている間に、我々は作戦を

練らなければいけません。私は3日の朝5時ぐらいに教務所を出発して、まず門前、そこから輪島、そして珠洲へ行きました。会えた人からは被害状況やニーズを聞き取りましたが、一番やりたかったのは、本山隊やボランティアが入る時に安全が保障できるかどうかと、活動ができる環境が整えられるかの確認でした。門前には行ける。輪島は厳しいけれど行ける所は行ける。しかし珠洲はかなり危険だとわかりました。おびただしい数の緊急車両も入っていました。人命の救助、生命の維持は国の責任においてなされることですので、緊急車両を邪魔してはならないことと、安全が保障できない所に行ってくださいとはお願いできないことの確認は宗派と取れたので、本山隊には、行ったらすぐ帰ってくる形で物資を届けてもらうこととなりました。

奥能登は携帯電話が使えない状況でしたので緊急地震速報のアラート音も鳴らない。その中で活動するには危険が伴います。それでも物資を届ける選択をしたのは、寺院や門徒さんの安否、被害状況などを把握することが、次の作戦を練る元になるからです。また真偽不明の情報が飛び交っていて人々の不安を呼び起こしていました。だから確かな情報を一刻も早くキャッチして伝えていくことが、本山隊と教務所がやらねばならない大

切な仕事だったんです。

目的はもう一つありました。お寺さん方の携帯電話の把握を急いだんです。もちろんニーズを掘り起こすためでもあるのですが、寺と門徒さんとのつながりが切れないようにするためでもありました。国はまず一般市民の生活の復興、その上でお寺の復興という順で考えるはずなので、お寺の復興は確実に遅くなる。宗派はそのお寺をサポートしなければならぬ。これは相当な長期戦になると考えました。そのために一番大事なのは、お寺と門徒さんとのつながりです。当時、すでに御遺体が金沢、富山に運ばれていました。お経を上げてほしいとなったら、門徒さんは能登のお寺さんに来てほしいと思うだろう。違ってお寺さんをお願いせざるを得ない状況になったら、関係が途切れていく危険性がある。それではお寺の復興が難しくなってしまうことなんです。ですから、葬儀屋さんから連絡が来た時に、教務所がお寺さんの携帯電話をお伝えし、お寺と門徒さんとの間を取り持っていたために、携帯電話の情報があつた程度とまった段階で、金沢の主な葬儀屋さんをすべて回りました。皆さん、好意的に協力してくださいました。実際に葬儀屋さんからの連絡で職が無事だと聞いて、門徒さんが泣き崩れる姿を見た葬儀屋さんが、能登という土地は門徒さんと



竹原了珠 (たけはら りょうしゅ)  
真宗大谷派・能登教務所長

お寺とのつながりがこれだけ深いのかととても驚いたという話を聞きました。

また、法衣店から支援をいただきました。倒壊した寺院は衣もろともでしたので、僧衣の他に作業衣も、かなりの数をお届けいただきました。被害が多かった奥能登の寺院に重点的に届けていますが、まだ数は足りないです。

あとはお寺の応急処置です。雨漏りがひどい所がたくさんありました。たまたま能登町に入っていた岐阜の建設業者さんから本山に、困っているご寺院がたくさんあると思うので、ボランティアで支援させていただきたいと連絡がありました。そこで最初は被害がひどかった珠洲、能登町に限定してブルーシートをかけていただきました。災害時において公平性、平等性の確保は難しいのでクレームはおそらくあるだろうけれど、まずは珠洲と能登町。そこはほぼ終わりました。次に輪島へと少しずつ広がっていきました。しかし、やがてこの業者さんがもう難しいということになったので、それまでに行けていない所は本山にお願いしました。

初動の対応の最後として、教区LINEを6日に立ち上げました。けれども携帯電話がわからないからリンクエストができない。だからつながった寺院にさらに声をかけてもらって、2月の頭に

登録者が1000人まで到達しました。でも教区内寺院は353です。1000は多すぎますよね。これは教区外の方々がつながっていったということ。そのおかげで支援物資も集まってきました。我々の本来の願いとしては、教区の皆さんへのお知らせやニーズの吸い上げのためでしたが、今でも353カ寺すべてはつながっていないです。

——それから5カ月が過ぎました。今、必要なモノやコトは何でしょうか？

NGOやNPOといった支援の手がどんどん少なくなってきました。県のボランティアもゴールデンウィークにはこれまでの1.5倍から2倍ぐらい来ましたが、基本的には1日ないし数日ぐらい。できることは限られています。

また、珠洲では弁当の配布が3月頃に始まりました。それは行政が生きて権利を担保するという意味で喜ばしいことでしたが、あと数日で終わるそうです。理由は暖かくなつての衛生面の問題、もう一つは地元のスーパーを活用してほしいからとのこと。しかし珠洲の人たち全員がスパーに行けますか？車も圧壊してしまつて。どうしようという声が多すぎます。これまで保障されていた生きる権利が、途絶えていく可能性があります。

どうしても写真はきれいに写るんです。実際に見たら全然違います。見てもらうことは支援につながるかもしれないし、能登の教訓に学んでいただくことがあつてもいいのではないかと思います。

——今後も自然災害は頻発すると予想されています。それに対する準備として気をつけることを教えてください。

すべての教団において連絡網を把握しておく必要は絶対あると思います。初動がまったく違ってくる。我々が危険と時間を費やした労力も、平時であれば必要ありませんでした。

あとは、宗派のHPやX(旧ツイッター)などに具体的な寺院名と住所は書いていません。当時からパトカーが相当走っていたのは盗難もあつたからです。今もいろんな人たちが物色されているという情報が入っています。また、これから立ち行かなくなっていくご寺院に対して、宗教法人のブローカーが動いてくる危険性も考慮する必要がありますがあると思います。彼らが目星をつける際の情報源として使われてしまう可能性を考えて、どこまで載せるか考えなければいけないと思います。

最後に準備しておくものは水です。2月からこの能登教務所が本山隊の拠点になり、ボランティア



ある。これは国の問題であり、国が保障しなければならぬ生きる権利は人権の問題です。

あとは仮設住宅。同じ行政区画でも地域によって扱いが全然違う。例えば、地域によって夫婦であれば2K。けれど同じ市でも1Kの所があります。ニーズにあった供給ができていないということです。実際、仮設に入れたけれども家族みんなは住めんと、住職が夜は傾いたお寺で寝泊まりしている場合があります。お寺だけではなくて一般の家庭でもありそうです。

けれども、一般家庭まで水道や電気が行き渡

ア支援センターも開所しました。ただこの段階ではまだ通水していませんでした。ここにあった9トンの水は早々に枯渇しました。ですから雨になつたらすぐバケツに水を溜めました。雪は溶かすのに時間と熱量がかかるので役に立ちません。飲み水は本山隊が持ってくるもの、あるいは金沢教務所で給水したものを使っていました。水の問題は問題としてずっとあり続けました。

——最後に、仏教界として災害に対してどう向き合えばよいと考えますか？

道路に例えるならば、お寺がコースアウトしないように、道が割れていたら埋め物をして走れるようにすることが、宗派行政が一番やらなきゃいけないことだと思っています。

しかし、これほどの広域災害になると宗派独自で動くのには限界があります。その時に一番力になるのは、国や国会議員、さまざまな業者、他の宗教団体など、いろいろな人たちと手をつなぐこと。そういった被災地だけでなく全体が手をつないでいくコーディネーター機能が宗派にも宗教界にも求められていると思います。

——他の地域の注目、例えば報道の量なども減っていると感じますか？

はい。なので、ボランティアに行きたいけど行けないという人には、あなただけでいいから来てくださいと言いたいです。極端な話、あなた一人の体温が、能登の方に伝わるだけでもいい。そして見ていただく。それをまた伝えていただくことで、何かしら動いていくかもしれない。発災当初は確かに車には来てほしくなかった。しかし今はフェーズが違います。とにかく来てほしいとお願いしています。

シャンティ国際ボランティア会

—— 発災してから、シャンティが支援体制を形作るまでのお話をいただければと思います。

茅野 6日に初動調査として災害担当者に先に入ってもらうことになりました。私も9日に出勤しましたが、拠点を作ることが現地では難しいとの報告を受けました。そこで七尾にある曹洞宗の大覚寺さんに連絡をしたら、無住の東光寺というのがあるので、そこをまず拠点にしようとなりました。

10日、11日は珠洲への物資の配布と、七尾と穴水の境にある中島という所の自主避難所で炊



茅野俊幸 (ちの しゅんこう)  
(公財) シャンティ国際ボランティア会副会長、  
曹洞宗瑞松寺住職

かったそうです。その間、体は拭いていたけれども、初めてつかった時の感動はすごいそうです。また高齢化率が高いので、要支援、要介護、認知症の方もいました。ご住職さんの中にはいらっしやって、私も一緒にお風呂に入りました。体を拭いたり、介添えして入ったりといった支援が長い間、続いています。(五月末に活動終了)

次にセントラルキッチンについてですが、今は閉鎖されて建物も一部損壊したビューサンセットという施設の調理場を利用して、地元の料理人さんたちと一緒に調理して配食するサービスを行いました。自主避難されている方々、ご飯が食べられない状況の方々を対象に、一番多い時で400食。各地域の公民館に運ぶと、その区長さんが配ってくれました。そうした住民自治力に乗っかって配食ができたんです。私たちだけでそれだけ配ることなど無理なので、地元の方々の協力があったこそでした。2月から始めて4月の終わりまで週4日続けました。その中で、家の片付けをしてほしいとか、ニーズを聞き出すこともできました。

他にサロン活動。三宅島の噴火の時から一緒に活動している東京ボランティア市民活動センターという団体と、禅の里交流館の駐車場を開放して、余っている物資を持ってもらったり、お茶

出しを行いました。それと並行してスタッフが門前町に行ったらニーズが高く、また輪島市からも要請されて、12日から本格的に門前町に入りました。

はじめは門前公民館に入りましたが、拠点をどうしようという時に、この「禅の里交流館」をお借りできないかと管理部長さんに相談したところ、輪島市が管理する建物ですが、館長さんが曹洞宗総本山の總持寺祖院の監院老師であることもあり、その日のうちに即決で借りました。ガラスが割れてガチャガチャの中、段ボールを敷いて震えながらの雑魚寝で始めました。

まずは避難所の運営、炊出しや物資の配布の調整。少しずつ機能を整えていって、今、横にいる宮下さんを含む二人を現地雇用しましたが、地元をよく知る方を雇用できたのがすごく力になりました。

—— 二ヶ月までの支援活動についてお聞かせください。

茅野 皆さん被災されている中、動ける人たちが避難所運営を頑張ってきました。私たちはそれをサポートしながら少しずつ次の段階に移り、入浴買物支援バス、セントラルキッチン、サロン活

飲みして語らう活動を毎週やっています。避難所がだいぶ閉鎖されてきて、最終的に皆さんが仮設住宅に入れるのが8月頭になると言われているので、今は避難所から仮設への移行期です。その段階で、皆さんいろいろと困っていることがあります。仮設に移った後の家の片付けとか、家の再建のための手続きとか、損壊の判定を一度受けたいけれども、再判定してもらった方がよいのではないかとというような。そうした相談窓口を作りましょうと発案したのはこの宮下さんです。

宮下 もともとこの禅の里交流館は、街の人たちにも立ち寄ってほしい場所だし、「交流」館なので交流してほしい場所。だからサロンをするのであれば、とりあえずここでという感じで提案しました。

門前町には、避難所に行っていない人も結構い



宮下杏里 (みやした あんり)  
總持寺通り協同組合「禅の里交流館」管理部長  
シャンティ国際ボランティア会能登半島地震緊急  
人道支援担当

動などをするようになりまし

入浴買物支援バスに関して、ここから旧道で30分くらい行った海沿いに七浦という地域があります。トンネルが通った

ことよって門前町が近くなり、買い物がいやすくなった地域ですが、震災によってそのトンネルが通行できなくなりました。車の足がないお年寄りには、自衛隊のお風呂にも入れないし、買い物もできないので、地元のタクシー会社と連携して支



援バスを1月末から始めました。5月6日に自衛隊は撤退しましたが、今はNPOが小さいお風呂を作って継続していますので、ここに来てもらっています。皆さん、40日間くらいお風呂に入れな

たんです。セントラルキッチンをした時、一緒に回って、この地区ならこの人というようにシャンティと地元をつないでいたんですけど、実際の辺でも避難所に行っていない人が多いと気付きました。そうすると情報が下りてきづらいから伝える場も必要だろうし、猫ちゃんがいるとか、個々に行けない理由があるんだろうと思っていましたが、この近くにいっても、みんなが何に困っているのかがあんまりわからない。シャンティにも町の人と積極的に関わってほしいと思っただし、お互いに喋ってもらう場所を作った方がいいなと思っていました。

私自身も、門前中学校の避難所運営に携わっていたので、普段、商店街のためにと動いていたのに、被災後それがまったくできていなかったのので、シャンティと一緒に活動することによって、商店街のために何かできることないかと考えていました。

—— 今、門前町と總持寺祖院の置かれた状況はいかがでしょうか？

茅野 門前町の社会福祉協議会には、常勤が3人しかいません。なぜなら門前町は輪島市と合併したのですが、本庁のあたりは優先的に行政サ



ビスがくるのに対し、門前町は後回し。社協の規模も支所も小さくて、市民のボランティア集めが上手く回っていません。一番の原因は拠点が築けないことです。寝泊まりする場所がなく、日帰りだと遠くの方にはかなりきつい。新幹線で金沢に来る他に能登空港もありますが、そこからの足がありません。内海側の七尾や穴水とかまでは公共交通機関がしっかりしているのでそちらに集中し、外海側は敬遠されていていまだに少ないです。シャンティのような常勤の10団体くらいが日々のガレキの撤去とかをしている状況。そこが大きな課題です。

總持寺祖院に関しては、本堂や山門など耐震構造にしていたものは、ある程度残っています。しかし、2回目の本震で隆起して時計回りに回転しているんです。地中の調査をしないと正確には分からないですが、多分、基礎柱はほとんどずれているでしょう。

皆さんの宗派のお寺もそうですが、文化財なので、文化庁の指導がないと、ガレキの撤去ができません。この鬼瓦は元瓦として江戸時代からの貴重なもので破片まで全部とっておく、というような指導の中で片付けなので、かなり時間を要します。ガレキを撤去した後、転倒防止工事をして、10月から本格的に図面を引き直して、全

店街の食堂が、夜ここで屋台やっていかとか、アイデアが出てきたり動くようになってきたので、いきっかけになったんじゃないかなと思います。

茅野 私たちシャンティは、事業として縮小しながら、いつか撤退、終わりがあるんですけど、總持寺祖院の高島副監院は曹洞宗の復興と町の復興をどう結びつけていくかすごく考えているんです。門前町という總持寺を中心とした町と関わる事態は、私たちにとってもレアケースで、どうしたらいいか自分の中で悩みがあります。活動を通じていろいろと話していると、近所の変なギャグ言うおっちゃんみたいな感じで受け入れてくれて、それがあるからこそ愚痴を吐露してくれるので、自然に傾聴ができていのかと思うんです。傾聴しますっていうのではなくて、自然に日常の中で吐露してくれる土壌がここにはあると感じていて、そこをどれだけ細く長く、宗教者としてやっていけるかなってことを思っています。

——茅野さんは長いことシャンティで社会貢献活動に携わってきて、僧侶としてその意義をどのようにお考えでしょうか？

茅野 私の目標は心に寺を建てるということ。ど

体をどういうふうにな何を優先して、耐震にしているのかという順序になります。

とにかく17年前の地震と比べると、今回はかなり被害が大きく、ガレキの撤去や解体が進んでない。だから皆さん、不安は大きいです。

——地方の活性化は全国的な課題です。能登においては、それに震災からの復興が加わる厳しい状況かと思えます。

宮下 門前町って2007年の地震でも大きな被害を受けているので、2回目の震災なんです。当時50代だった店主が、新しく店を構えて今60代、70代。15年かけて復興してきたので、今から90までもう一回やるんか、という状況なんです。それを無理してやれとも言えない。私は、總持寺通り協同組合の禅の里交流館管理部長として、組合のみんなが頑張ろうってならないと、引っ張っていかない。

1月、2月の頃、福島とかいろいろな方が、「復興」という言葉は、人それぞれ思い描く形が違う。いろいろなことをやり出した時に、目標が違っているとどこかで歪みが起きるから、復興のレベルを合わせた方がいいって言われたんです。20代、30代、40代を集めて、みんなでビール飲んで愚痴

こに行っても心に寺を建てながら、その地域の人たちと向き合っていく姿勢が必要だと思います。檀家さんだけでなく、いろいろな人たちと向き合うことが、衆生とともにということでしょうか。

やることとしては、まずは人の話を聞くことから始めます。シャンティとしての事業の形は、いわゆる専門的なベースライン調査、ここに被災した人がどのくらいいて、何を対象にやっていくのかを考えながら事業を組み立てていきます。私はそれらの事業をすすめるながらも別な角度で、どんな人がいるのか、どんな人と出会えば一緒に復興の道を歩んでいけるのかを探るのが、やり方というか道ですね。でも急いじゃいけない。特にこの門前町は速度が違います。私たちの考えでコレやしませんか次にアレいきましたよ、ある期間にこれだけ被災者が増えました、ということではなくて、もう少しゆっくり、ともに住んで伴走するとか、ともに歩んでゆくことが自分の中の修行だと思っています。

東日本大震災の時は、陸前高田で出会った方ともう13年の付き合いがあります。そういう一人の人生を見ていくことの中から支援が広がっていくのかなと思っていました。今回は宮下さんの人生を見ていきたいと思っています。

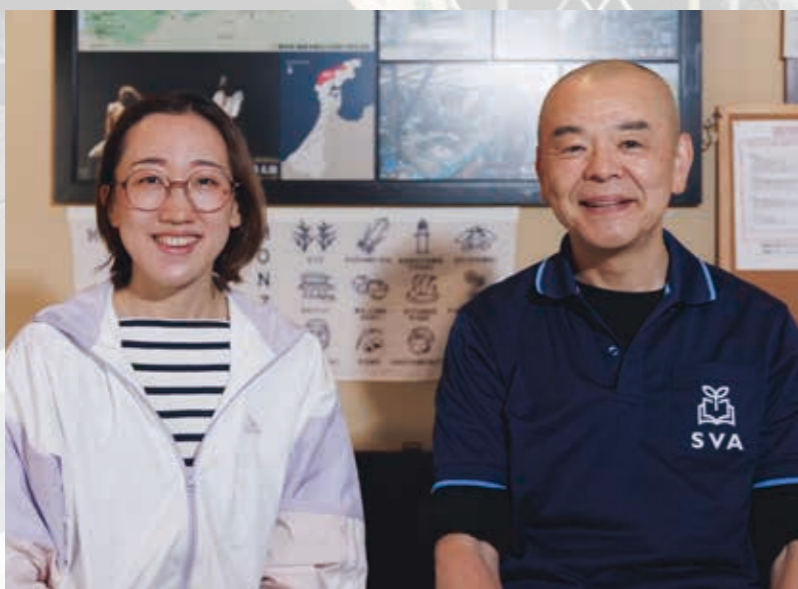
宮下 本当にありがたいですが、私もボランティア

り合おうと復興会を始めたんですけど、復興のレベルを合わせるって実際なかなか難しいし、何が復興かは今でも私にはわかりません。

でも私の根本にあるのは、住んでいる人が楽しい町。震災に関係なく、前からそれが目標でした。だから、店主のみんなにも、無理してイベントしようと思わなくていいと言っています。無理したって続かんし、店主が楽しいって思わんと、来たお客さんも面白くないから。実際笑っていても、もちろん心の奥底では、家をどうしようとか悩んでいるけど、地震がなくてもみんな悩みごとはあるし、震災における家のことは、国が何とかすることであって、自分らは訴えることしかできない。愚痴の吐き合いをみんなですって、仲良く、協力し合っじゃないかと、訴えることなんてできないじゃないですか。それは、普段楽しめると仲間だからできること。そして楽しい町を作って、来てくれた人が良かったよって発信してくれたら、それが復興につながるっていくんじゃないかな。それは、震災は関係なく、門前の活性化の時にずっと思っていました。楽しければみんな残るはずし、長生きするはず。

今、シャンティとして私が戻ってきて、みんな出てきてくれたり、笑顔になってくれてる感じはあります。サロンを開くようになってから、商

アの子たちに言っています。僕たちのやってきたこと身になりましたかってよく聞かれるんですけど、一人の人を助けると思ってくればそれでいい。住民には心を開いてくれる人もいればくない人もいるから、君に心を開いてくれたおじちゃん、おばあちゃん誰でもいい、その人一人を助けたらそれでいい。大勢を助けようと思っただって無理だし、その人の心に寄り添ってくればそれでいいよって言っています。



背景写真：總持寺祖院正門

# 仏教教団が「過疎問題」とむきあうために

## 教団の垣根をこえた取り組みの重要性

2024年4月24日、日本の自治体のうち全体の4割にあたる744の自治体が2050年までに消滅する可能性のあることが各種マスメディアより報じられました。これは「人口戦略会議」による分析であり、2014年5月初旬に行われた「日本創成会議」の報告から10年経過したことをうけて発表されたものです。つまり、日本が人口減少社会となり、その問題が世間に浸透し顕在化されるようになって10年以上が経過したことになります。さらに、それよりも前から人口減少で問題視されてきたのが日本の各地域でおこっている「過疎化」です。

### 「過疎問題連絡懇談会」の成立

筆者の所属する浄土真宗本願寺派（以下、本願寺派）では、1970年代より、農山村部にある寺院を中心に人口流出に伴う過疎化が継続的に問題視されており、実地調査や都市部との連携など

を中心に模索されました。他の教団においても、過疎対策は、始動時期に差はあるものの、教団運営において無視できない問題として扱われ、さまざまな議論や対策が講じられています。

2014年、本願寺派では、道の駅の命名者としても知られる徳野貞雄氏（熊本大学名誉教授）の講演会を開催しました。その講演会には、真宗大谷派企画調整局の方々も聴講されていました。その後、真宗大谷派の提案をうけ、徳野氏を招き「過疎」とそこに所在する寺院のありようを考える勉強会を定期的で開催することになりました。そこで発足したのが、「過疎問題連絡懇談会」（以下、懇談会）です。それまで筆者は、過疎地に所

在する寺院について、真言宗智山派や日蓮宗、浄土宗の方々や情報交流を行っていましたので、この懇談会では、「過疎問題」に従事する教団職員と研究者を対象とし、各教団の情報交流を推進することも目的に行うこととしました。事務局は、真宗大谷派企画調整局と本願寺派寺院活動支援部（過疎地域対策担当）が2年度ごとに交代しながら行っています。過疎問題に詳しい有識者を招聘した勉強会と過疎問題に関心の高い各教団関係者や研究者を会員として集い、各教団の過疎に対する考えや施策、課題などを提示しあい、情報交流を進めています。

だが、情報交流を進めてきた各教団の担当者の交代や教団の過疎対策に関する方向性の変化などもあり、現時点（2024年）での各教団の過疎対策の状況などは確認できていません。そこで今回は、2020年までの懇談会で行ってきた議論のなかから仏教教団の過疎問題での共通項や相違点について紹介させていただきます。

### 3つの取り組み

これまで懇談会では、日蓮宗・真言宗智山派・臨済宗妙心寺派・曹洞宗・高野山真言宗・浄土宗・天台宗・真言宗豊山派・真宗教団連合・臨済宗黄檗宗連合各派合議所・真宗大谷派・本願寺派の「過疎問題」に従事する関係者が集い、課題や施策などを報告し共有してきました。

2020年までの議論をもとに、各教団の過疎対策をまとめると、「寺院活性化」「宗教法人の統廃合」「現状把握」の三点に集約することができ

ますので、ここでは、その概要と筆者の所感を述べます。まず、「寺院活性化」についてです。それぞれ

の教団でアイデアを駆使しつつ、独自の活動展開がなされていきました。特に、住職家族や門徒（檀家）のモチベーションアップをはかる研修会が注目されます。たとえば、真宗大谷派や日蓮宗では、一般社団法人「お寺の未来」と提携し、「寺院運営計画書」作成講座を各地で展開していました。また、本願寺派や日蓮宗、真宗大谷派では、支援員制度を導入し、過疎地寺院それぞれの課題に対して、教団の施策と照合しながら、提言や相談などを試みています。

曹洞宗や日蓮宗では、教団のホームページ内で寺院検索を手がけ、ネット上で検索しやすい環境整備を行っています。臨済宗妙心寺派では「第二の人生プロジェクト」として、年金収入の見込める中高年者を対象に僧侶として養成し、経済基盤が厳しい寺院への派遣を行っています。

妙心寺派の取り組みは、教団が抱える不活動寺院の多さに起



日蓮宗寺院検索 (https://www.nichiren.or.jp/temple/)

因していました。住職が不在となる寺院の要因は、経済事情や傷んだ伽藍、檀家の離散などさまざまですが、特に寺院後継者の不在が大きな要因となっています。特に、寺院後継者の育成は、どの教団にとっても喫緊かつ重要な課題です。これらをふまえると、現時点からさまざまな試行錯誤を重ねつつ、住職をはじめとする寺院運営に関わるすべての人のモチベーションをあげ、次世代が引き継ぎたいくなるような魅力ある寺院活動を行うことが、何よりの過疎対策につながるものと考えます。



臨済宗妙心寺派「第二の人生プロジェクト」 (https://www.myoshinji.or.jp/shumonkassel)

次に、「宗教法人の統廃合」に関する各教団の取り組みについてです。統廃合とは、宗教法人の合併もしくは解散を意味します。本願寺派では、合併・解散についてそれぞれ手引き書を作成し、所轄庁の諸書類の申請などの事務処理の支援を行っています。また、妙心寺派と本願寺派では、解散・合併にあたる事務費や建物除去費に対する助成金制度があります。さらに、妙心寺派で



七尾市仏教会でのワークショップの様子

は、状況に応じて宗務本所役員を特命兼務住職に任命し、宗務本所主導で解散手続きを行っていきます。この事業を担当する宗門活性化推進局顧問の久司宗浩氏は、以前行われた懇談会のなかで「寺院の廃寺は、檀家や地域住民など、残された人の心のケアが一番大切」であることを強調されました。廃寺に伴い、残された檀家や地域住民のさまざまなケアについては、教団を越え、さらなる議論や連携が必要だと考えます。

最後に「現状把握」についてです。各教団では、5年ないしは10年単位で、「宗勢調査」もしくは「教勢調査」と呼ばれる教団内の悉皆調査を実施しています。さらに、特定の地域を選定し、住職家族や地域住民を対象とした実地調査を行っています。各教団は、これら二つの手法を用い、相互に補充しながら現状把握に努めています。懇談会では、特に、各教団の悉皆調査での設問の共有をはかりました。設問が共有されると、それぞれの調査の比較検討が可能となり、どの地域の寺院運営が弱体化しているか、人口減少に伴い寺院の体力はどのような過程を経るのか、さらに、各教団の強みや弱みなどがわかると考えたからです。

の取り組みとして過去に行った実地調査を紹介いたします。懇談会では、2017から2018年に石川県七尾市にて、教団を越えた寺院調査ならびに集落調査を行いました。この調査により、郷里から離れて暮らす子どもたちが比較的近くに居住し、葬式や法事、お盆など仏事に関連する行事に頻繁に帰ってくるのがわかりました。その後、七尾市仏教会を対象とし現地報告会を行いました。調査結果を報告した後、参加者にはランダム

2019年度、懇談会のなかで作業会議を設置し、各教団の調査に携わる担当者と研究者が集まっていただき議論を繰り返しました。その議論をまとめ、寺院施設や寺院家族、檀信徒の状況や危機意識などの設問項目を「設問共有」としてまとめ、懇談会のなかで提案しました。以上が、教団の「過疎対策」の共通項としての3つの取り組みです。

「過疎」の捉え方の相違点

次に教団の「過疎対策」に関する相違点をみてみましょう。情報交流をすすめていく中で、顕著に違いが出たのが、「過疎」の捉え方が教団により異なるという点です。まず、教団所属の寺院が同地域に過密して存在している地域に「過疎」問題が多いとみるケースです。たとえば、本願寺派では、富山県や滋賀県、奈良県などで、真言宗智山派では千葉県房総半島南東部などが該当します。本願寺派の滋賀県にある寺院をみると、滋賀県自体は人口増加の見られる数少ない自治体であるにもかかわらず、当地の寺院の多くは過疎化を問題視しています。滋賀県には、本願寺派寺院が

にグループになってもらい、ワークショップを行いました。すると、参加者から「地域の悩みは教団の違いに関係なく同じだった」「教団内ではないえない悩みを吐露することができた」といった声を多数頂戴しました。宗派や教団は異なりますが、同じ地域住民であり、寺院運営の責任を持つ方々です。地域の苦悩を共有することにより、新たな関係性が構築され、違った視点から活動が展開されるのではないかとこの可能性を感じたワークショップでした。

2024年1月に令和6年能登半島地震が発生し、多くの寺院が被災されました。現在（2024年5月）も多くの寺院関係者が復旧に向け悩み奮闘されています。懇談会としては、復旧が落ち着いてきた時点で、調査にご協力いただいた寺院にうかがい、お見舞いもうしあげたいと考えています。

各地で教団の垣根を越えて寺院の連携をはかり活動することは、さまざまな可能性を生み出すチャンスになると考えます。たとえば、地域の行政機関やNPOなどの諸団体と連携が組みやすくなる可能性があります。特に行政機関は、「政教分離」により一宗教団体と協力体制をしくこと

約600カ寺あり、1集落に3カ寺以上立地しているケースも多いので、1カ寺あたりの教化の範囲が限定的になってしまっています。また、門徒の大半が寺院近隣に集中し、門徒戸数30軒未満といった小規模型寺院が多くあります。つまり、新興住宅地の開発などにより近隣地域の人口は増加していますが、寺院が所在する集落の人口は減少しているため、集落が衰退することで、寺院運営が弱体化していることがうかがえます。

もう一つは、行政の示す「過疎指定地域」を使用し、過疎地域か否かの判断を行うケースです。過疎指定地域は、各自治体の財政力指数や人口減少率より判断されます。寺院の実態と照らし合わせると、単純化が難しい面もありますが、一つの判断基準としては効果的です。このように、どの地域を過疎地と判断し、施策を講じるかは、教団内での寺院分布などを考慮する必要があります。

教団の垣根をこえる重要性

以上、各教団の過疎対策の共通項として3点の取り組みと相違点を概観しました。最後に懇談会

は難しいですが、地域単位で各宗教団体が連携しアクションをおこせば、関心を寄せてくれる可能性もあるでしょう。こうした地域にある団体と教団や寺院が連携し、共に考え、さらなる活動を展開すれば、人口減少する日本社会に仏教界が大きなうねりの一躍を担うことができると、筆者は期待しています。



那須公昭 (なす・きみあき)


1980年、岡山県生まれ。龍谷大大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。浄土真宗本願寺派総合研究所研究員。京都女子大学講師。専門分野は真宗学、寺院と地域論。主な論文に「第11回宗勢基本調査からみた本願寺派の過疎地寺院のいま」(『浄土真宗総合研究』17号、2023年)、「安心決定鈔」の「帰命」について(『真宗研究』66号、2022年)など。

# 暑中お見舞い申し上げます

**高野山真言宗 総本山金剛峯寺**

管長 長谷部 真道  
 執行部長 今川 泰伸  
 総務部長 近藤 本淳  
 教務部長 桐生 俊雅  
 国際部長 加藤 栄俊  
 法務部長 竹井 成範  
 執行部長 津田 哲哉  
 SCS推進部長 藪 邦彦  
 高野山執行部長 岸本 優宏  
 内務局長 藤本 善光  
 信託局長 菅 善光  
 社会人権局長 後藤 友栄  
 国際局長代理 立葉 了禅  
 教学部長 大森 照龍  
 霊宝館館長 仁賀 大善  
 奥之院維那 大森 照龍  
 伽藍維那 東山 教清  
 高野山東京別院主監 永崎 亮寛  
 高野山京都別院主監 柏田 良辯


〒48 648 0294 和歌山県伊都郡高野町高野山一三二  
 TEL 0736(五六一)2011  
 FAX 0736(五六)4640



**臨濟宗妙心寺派宗務本所**

管長 山川 宗玄  
 宗務総長 野口 善敬  
 総務部長(兼) 堀尾 行覚  
 教学部長 足立 宜了  
 財務部長 真常 紹天  
 花園会長 小林 秀嶽  
 本部長 吹田 良忠  
 法務部長 吹田 良忠


〒616 8034 京都市右京区花園木辻北町一  
 TEL 075(四六三)3111  
 FAX 075(三五一)1371  
<https://www.mjoshinji.or.jp/>



**天台宗 天台座主 大樹 孝啓**

宗務総長 阿部 昌宏  
 総務部長 小林 祖承  
 参事 甘井 亮淳  
 参事 船戸 俊宏  
 参事 岩田 真亮  
 参事 柴田 真成  
 参事 竹内 純照

〒520 0113 大津市坂本四丁目六番二号  
 TEL 077(五七九)0022  
 FAX 077(五七九)2516  
<https://www.tendai.or.jp/>



**真言宗智山派宗務院 総本山智積院**


管長 布施 淨慧  
 宗務総長 三神 栄法  
 総務部長 久保田 剛士  
 教学部長 金子 隆昭  
 教化部長 荒井 真道  
 法務部長 足田 精栄  
 財務部長 杉本 栄次  
 宗務出張所長 官田 隆伸

〒605 0951 京都市東山区東大路七条下ル 東瓦町九六四  
 TEL 075(五四一)五三六一  
<https://chisan.or.jp/>

**真言宗豊山派宗務所**

管長化主 川俣 海淳  
 宗務総長 川田 興聖  
 総務部長 吉田 真澄  
 教化部長 小林 政彦  
 教務部長 川城 孝道  
 財務部長 藤原 静海  
 教化センター長 島本 誠永  
 真言宗豊山派 総合研究院長 中川 祐聖

〒112 0012 東京都文京区大塚五・四〇・八  
 TEL 03(三九四五)0639  
<http://www.buzan.or.jp/>



# 暑中お見舞い申し上げます

**曹洞宗宗務庁**

管長 南澤 道人  
 宗務総長 服部 秀世  
 参議 熊谷 紘全  
 参議 渡邊 義弘  
 人事部長 渡部 卓史  
 総務部長 松原 道一  
 教化部長 深川 典雄  
 教学部長 龍谷 顯孝  
 出版部長 倉内 泰雄  
 財政部長 近藤 龍法  
 伝道部長 戸田 光隆

東京都港区芝二一五一一  
 〒105 8544 03(三四五四)5411  
<https://www.sotozen-net.or.jp/>

**浄土真宗本願寺派**

結ぶ絆から、  
 広がるご縁へ


管長 荻野 昭裕  
 総務 日谷 照應  
 総務 三好 慶祐  
 総務 弘中 貴之  
 副総務 加藤 尚史  
 副総務 大河内 隆之  
 宗務組織機構改革推進本部長 山階 昭雄

〒600 8501 京都市下京区堀川通花屋町下る  
 TEL 075(三七二)5181  
 FAX 075(三五二)1371  
<https://www.honganji.or.jp/>

**真宗大谷派 東本願寺**

宗務総長 木越 涉  
 参務 古賀 堅志  
 参務 那須 信純  
 参務 長峯 顕教  
 参務 佐々木 高  
 参務 西受 秀文  
 宗務改革推進本部長 佐々木 高  
 宗務 長峯 顕教  
 参務 那須 信純  
 参務 古賀 堅志  
 参務 木越 涉

〒600 8505 京都市下京区烏丸通七条上る 常葉町七五四  
 TEL 075(三七二)9181  
<https://www.higashihonganji.or.jp/>



**浄土宗**

「浄土宗二十一世紀劈頭宣言」  
 愚者の自覚を  
 家庭にみ仏の光を  
 社会に慈しみを  
 世界に共生を

浄土門主 伊藤 唯眞  
 宗務総長 川中 光教  
 宗務役員 吉水 仙昭  
 宗務役員 中寫 正史  
 宗務役員 茂木 恵順  
 企画調整室長 名越 邦博  
 職員一同

浄土宗宗務庁  
 〒605 0062 京都市東山区林下町四〇〇・八  
 TEL 075(五二五)2200  
 FAX 075(五二二)5105  
 〒105 0011 東京都港区芝公園四・七・四  
 TEL 03(三四三六)3351  
 FAX 03(三四三四)0744  
<https://jodo.or.jp/>

**日蓮宗**

管長 菅野 日彰  
 宗務総長 田中 恵紳

日蓮宗宗務院  
 〒146 8544 東京都大田区池上二・三二・一五  
 TEL 03(三七五二)7181  
 FAX 03(三七五二)7186  
<https://www.nichiren.or.jp/>

いひおに合掌  
 令和13年(2031)10月13日に日蓮聖人第750遠忌を迎えます

# 暑中お見舞い申し上げます

**法華宗 (陣門流)**

管 長 鈴木 日慧

宗務総長 西山 英仁

総務部長 牧野 秀成

企画部長 金原 孝宜

財務部長 西山 聡達

教学部長 布施 義高

教化部長 松吉 慶憲

宗務参事 田中 隆寛

宗務参事 田内 孝照

宗務参事 竹内 敬雅

〒170-0002 東京都豊島区葉巻五三五六  
TEL 〇三(三九一)七二九〇  
FAX 〇三(三五七六)〇一一一

**顕本法華宗**

管 長 大川 日仰

宗務総長 秋葉 敬真

宗務次長 津村 乗信

庶務部長 秋山 事遷

布教部長 川崎 英真

社会部長 中村 文治

財務部長 島田 誠岳

教務部長 藤崎 裕学

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町九十一  
TEL 〇七五(七九一)七一一一  
FAX 〇七五(七九一)七二六七

**一般財団法人 埼玉県佛教会**

会 長 倉持 秀裕

副会長 加藤 玄静

同 条原 恒久

専務理事 深谷 雅良

常務理事 山口 正純

同 河野 亮玄

同 馬場 知行

同 井倉 賢照

事務局 金子 嘉広

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂 四一三・一八  
TEL 〇四八(八六一)二一三八  
FAX 〇四八(八六四)六六四九  
<http://saijutunet/>

**愛知県仏教会**

会 長 軽部 浩史

副会長 山田 泰信

副会長 酒井 泰俊

副会長 林 大晃

理事長 後藤 順生

顧問 伊藤 正導

顧問 岩木 涼山

事務局 則武 大輔

愛知県仏教会事務局  
〒497-0036 愛知県海部郡蟹江町 須成西七丁目六一一  
TEL 〇五六七(九五)三〇一〇

**公益財団法人 仏教伝道協会**

会 長 木村 清孝

理事長 沼田 恵明

理事 青木 晴美

理事 門脇 邦彦

理事 野村 邦武

理事 生田 忠士

理事 塩入 亮乗

理事 逸見 道郎

監事 中野 東禅

監事 松村 智司

〒108-0014 東京都港区芝四丁目三一・一四  
TEL 〇三(三四五五)五八五一  
FAX 〇三(三七九八)二七五八  
<https://www.dtk.or.jp>

# 暑中お見舞い申し上げます

**天台真盛宗 総本山西教寺**

貫 首 長 武田 圓寵

宗務総長 市川 隆成

教学部長 兼子 鐵秀

社会部長 西澤 義宏

財務部長 橋爪 真全

庶務部長 鈴木 康之

〒520-0113 滋賀県大津市坂本五・三一  
TEL 〇七七(五七八)〇〇一三  
FAX 〇七七(五七八)三四一八

**天台寺門宗**

管 長 村上 法照

宗務総長 明石 清澄

教学部長 小林 慶明

財務部長 川合 弘曜

修験道部長 秋田 幸輝

庶務部長 加藤 明信

録 事 三島 宗覚

〒520-0036 滋賀県大津市園城寺町二四六  
TEL 〇七七(五二二)五一一〇  
FAX 〇七七(五二二)五一二八

**総本山仁和寺 真言宗御室派**

管 門 長 跡 瀬川 大秀

執行総長 大林 實温

執行部長 牟田 清樹

執行部長 橋本 高諄

執行部長 松永 真和

〒616-8092 京都市右京区御室大内三三  
TEL 〇七五(四六一)一一五五  
FAX 〇七五(四六四)四〇七〇  
<https://ninnaji.jp>

**融通念佛宗 総本山大念佛寺**

管 長 吉村 暉英

宗務総長 田中 瑞修

教学部長 吉井 良久

庶務部長 好野 良博

財務部長 佐々木 智祥

〒547-0045 大阪府平野区平野上町一・七二六  
TEL 〇六(六七九)〇〇二六  
FAX 〇六(六七九)三〇五〇  
<https://www.daihenbutsuji.com>

**法華宗 (本門流)**

管 長 佐藤 日賢

宗務総長 金井 孝顕

教学部長 清水 常光

布教部長 三吉 廣明

総務部長 平田 義生

財務部長 久野 晃秀

企画部長 吉崎 長生

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 二・一九・一  
TEL 〇三(五六一四)三〇五五  
FAX 〇三(五六一四)三〇五六  
<https://www.hokke-shu.or.jp>



# 暑中お見舞い申し上げます

**時宗**

法主 東山 心徹

TEL 251 0001  
神奈川県藤沢市西富一・八・一  
〇四六六(二三)七二七六

**西山浄土宗  
総本山光明寺**

管長 沢田 教英  
宗務総長 土江 賢祥  
執行 長 土江 賢祥

〒617 0811 京都府長岡京市粟生西条の内  
二六番地の一  
TEL 〇七五(九五五)〇〇〇二  
FAX 〇七五(九五三)二二六四  
東京別院  
〒194 0215 東京都町田市小山ヶ丘一・二・一  
TEL 〇四二(七九四)八五八五  
https://www.komyo-ji.or.jp/  
横浜分院  
〒223 0053 神奈川県横浜市港北区綱島西二・三・四  
TEL 〇四五(五四四)四八九四

**臨済宗円覚寺派  
大本山円覚寺**

管長 横田 南嶺  
宗務総長 永田 正和

〒247 0062 鎌倉市山ノ内四〇九  
TEL 〇四六七(二二)〇四七八  
FAX 〇四六七(二三)三〇二七  
http://www.engakuji.or.jp

**臨済宗南禅寺派  
大本山南禅寺**

管長 有馬 頼底  
宗務総長 佐分 宗順

〒606 8435 京都市左京区南禅寺福地町八六  
TEL 〇七五(七七二)〇三六五  
FAX 〇七五(七七二)六九九九  
https://www.shokoku-ji.jp

**法華宗(真門流)**

管長 上田 日猷  
宗務総長 堀内 浩善  
総務部長 坂本 法保  
教学部長 峰尾 泉栄  
教化部長 舟積 法宏  
社会部長 水野 智悠  
財務部長 掘 雅博

〒602 8447 京都市上京区智恵光院通五辻上る  
紋屋町三三〇  
TEL 〇七五(四四一)五七六二  
FAX 〇七五(四四一)五六六六  
http://www.hokkeshu.jp

**臨済宗相国寺派  
大本山相国寺**

管長 有馬 頼底  
宗務総長 佐分 宗順

〒602 0698 京都市上京区今出川通烏丸東入  
相国寺門前町七〇一番地  
TEL 〇七五(二三一)〇三〇一  
FAX 〇七五(二二二)三五九一  
https://www.shokoku-ji.jp

**真言律宗  
総本山西大寺**

真言律宗管長 松村 隆誉  
真言律宗宗務長 総本山西大寺長老  
執行 長 辻村 泰範

〒631 0825 奈良市西大寺芝町一丁目一の五  
TEL 〇七四二(四五)四七〇〇  
FAX 〇七四二(四五)四七二〇

**本門佛立宗  
本山宥清寺**

講 有木村 日覚  
(七月二日遺囑伝承)  
宗務総長 新井 日現

〒602 8336 京都市上京区一条通七本松西入る  
滝ヶ鼻町一〇〇五番地一  
TEL 〇七五(四六三)四六二〇(代)  
FAX 〇七五(四六三)四六五一  
本門佛立宗 宗務本庁  
〒602 8377 京都市上京区御前通一条上る  
東堅町一〇番地  
TEL 〇七五(四六一)一一六六(代)  
FAX 〇七五(四六四)五九九九  
京都佛立ミュージアム  
TEL 〇七五(二八八)三三四四  
URL https://www.hsbmuseum.jp

**山梨県仏教会**

会長 千野 宗雄  
副会長 清雲 俊雄  
顧問 武田 智宏  
近藤 英夫

〒409 1313 山梨県甲州市勝沼町下岩崎一七八八  
TEL 〇五五三(四四)一九一五  
FAX 〇五五三(四四)一九一五

**東京都仏教連合会**

会長 田中 昭徳  
理事長 三吉 廣明


〒111 0036 東京都台東区松が谷二・十九・七  
涼源寺内  
TEL 〇三(三八四四)九五九七  
FAX 〇三(三八四四)三一七七

# 暑中お見舞い申し上げます

**公益社団法人  
日本仏教保育協会**

名誉会長 小澤 憲珠  
理事長 高山 久照  
副理事長 高輪 真澄  
副理事長 長谷川 弘顕  
副理事長 日野 昭文  
副理事長 田中 雪心

伝えよう  
生命の尊さ  
ほとけの心



〒105 0011 東京都港区芝公園四・七・四  
明照会館二階  
TEL 〇三(三四三)七四七五  
FAX 〇三(三四三)一五一九

**聖観音宗  
浅草寺**

賞首 田中 昭徳  
執行 長 守山 雄順

〒111 0032 東京都台東区浅草二・三・一  
TEL 〇三(三八四二)〇一八一  
FAX 〇三(三八四五)六九三三

**金峯山修験本宗  
総本山金峯山寺**

管長 五條 良知  
宗務総長 五條 永教  
執行 長 五條 永教

〒639 3115 奈良県吉野郡吉野町  
吉野山二四九八  
TEL 〇七四六(三二)八三七一  
FAX 〇七四六(三二)四五六三  
https://www.kinpusen.or.jp

**念法真教**

総本山小倉山金剛寺  
燈主 桶屋 良祐

〒538 0054 大阪市鶴見区緑三・四・二二  
TEL 〇六(六九一)二一〇一  
https://www.nenpoushinkyou.jp

**孝道教団**

統理 岡野 正純

〒221 0064 横浜市神奈川区鳥越三八  
TEL 〇四五(四三二)一一〇一  
FAX 〇四五(四三四)一一八八

**真言宗中山寺派  
大本山中山寺**

長 老 今井 淨圓

〒665 8588 宝塚市中山寺二丁目十一・一  
TEL 〇七九七(八七)〇〇二四  
FAX 〇七九七(八七)九八七七  
https://www.nakayamadera.or.jp

**真言宗大覚寺派  
大本山大覚寺**

大覚寺寺号勅許(開創)  
一一五〇年記念法会令和八年厳修

管長 山川 龍舟  
宗務総長 伊勢 俊雄  
執行 長 伊勢 俊雄

〒616 8411 京都市右京区嵯峨大沢町四  
TEL 〇七五(八七)〇〇七一  
FAX 〇七五(八七)〇〇五五  
https://www.daijakuji.or.jp

**東寺真言宗**

宗務総長 吉村 増亮

〒601 8473 京都市南区九条町一  
東寺真言宗宗務庁  
TEL 〇七五(六七二)三七一七  
FAX 〇七五(六六一)六八五六

**真言三宝宗  
大本山清澄寺**

管長 坂本 光謙  
宗務長 國定 道晃  
執行 長 森藤 晃正  
鉄斎美術館 長 森藤 光宣

〒665 0837 宝塚市米谷字清澄一番地  
TEL 〇七九七(八六)六六六一  
FAX 〇七九七(八六)六六六〇  
https://www.kiyoshikoji.or.jp

# 暑中お見舞い申し上げます

# 暑中お見舞い申し上げます

京都府仏教連合会  
兵庫県仏教会  
和歌山県仏教会  
鳥取県仏教連合会  
島根県仏教会  
岡山県仏教会  
(一社)徳島県仏教会  
香川県仏教会  
高知県仏教会  
福岡県仏教連合会  
長崎県仏教連合会  
熊本県仏教会  
宮崎県仏教連合会  
沖縄県仏教会  
(公財)国際仏教興隆協会  
東京ブレイスクラブ  
(一社)仏教情報センター

**大阪府佛教会**  
会長 村山 廣甫 (曹洞宗 東光院)  
副会長 森 快隆 (真言宗 葛井寺)  
同 南谷 惠敬 (和宗 四天王寺)  
同 清澤 悟 (真宗大谷派 願得寺)  
同 吉村 常妙 (日蓮宗 妙長寺)  
同 丹農 秀知 (浄土宗 専修寺)  
同 立石 泰教 (浄土真宗本願寺派 浄泉寺)  
同 二上 寛弘 (高野山真宗 釈迦院)  
事務局 大阪府港区築港一・十三 三釋迦院内  
TEL 06(六五七二)五七〇〇  
FAX 06(六五七二)五七〇〇

**愛媛県仏教会**  
会長 山崎 忠司  
副会長 谷川 龍玄  
副会長 香川 則雄  
監事 東影 大地  
監事 久松 宝詮  
事務局 二宮 泰教  
書記 五葉 良宗  
顧問 櫻井 雅之  
顧問 斎藤 友之  
顧問 越智 瑞啓  
顧問 仁田 喜潤  
顧問 志和 智幸  
事務局 愛媛県西宇和郡伊方町九町  
TEL 0796 0421  
FAX 0894(三九)0050  
URL https://www.jyba.ne.jp

**公益社団法人 全日本仏教 婦人連盟**  
会長 東伏見具子  
副会長 加用 稔子  
同 吉田 真理  
理事長 花岡真理子  
事務局 東京都渋谷区千駄ヶ谷 四・五・十一・二〇五  
TEL 03(五七七二)〇六七七  
FAX 03(六四三四)〇一八四  
https://jbfw.jp  
Email:info@jbfw.jp

**全日本仏教青年会**  
WFBY(世界仏教徒青年連盟)日本センター  
理事長 新井 順證  
理事 健代 晃教  
事務局 大阪府大阪市天王寺区 四天王寺一・十二・十八 四天王寺  
TEL 06(六七七)〇〇六六  
FAX 06(六七七)四九二一  
Email info@jyba.ne.jp  
URL https://www.jyba.ne.jp

**一般社団法人 日本仏教鑽仰会**  
代表理事 中山 齊栄  
TEL 174 0041  
FAX 03(三九六七)三二八八  
https://bukkyo-seminar.jp  
info@bukkyo-seminar.jp

**日韓仏教交流協議会**  
会長 藤田 隆乘  
副会長 柴田 哲彦  
理事長 西郊 良光  
理事 佐藤 隆一  
事務局 神奈川県川崎市川崎区 大師町四・四八  
TEL 210 8521  
FAX 044(二六六)三四二〇

和宗 妙見宗  
新義真言宗  
真言宗善通寺派  
真言宗山階派  
真言宗泉涌寺派  
真言宗醍醐派  
真言宗国分寺派  
真言宗須磨寺派  
信貴山真言宗  
真言宗大鳴派  
浄土宗西山禅林寺派  
浄土宗西山深草派  
真宗高田派  
真宗佛光寺派  
真宗興正派  
真宗木辺派  
臨濟宗建長寺派  
臨濟宗天龍寺派  
臨濟宗東福寺派  
黄檗宗  
本門法華宗  
法相宗  
聖徳宗  
華嚴宗  
律宗  
北海道仏教連盟  
青森県仏教会  
岩手県仏教会  
福島県仏教会  
茨城県仏教会  
栃木県仏教会  
群馬県仏教連合会  
千葉県仏教会  
神奈川県仏教会  
新潟県仏教会  
石川県仏教会  
福井県仏教会  
長野県仏教会  
岐阜県仏教会  
静岡県仏教会  
滋賀県仏教会  
(一財)京都仏教会

**賛助会員**  
【特別会員】  
大本山東福寺 原田 融道  
蓮華院誕生寺 川原 英照  
尾道仏教会 小林 暢善  
實相山中央寺 熊谷 忠興  
信州善光寺 林 明晋  
一般社団法人仙台仏教会 伊達 廣三  
壺阪山南法華寺 常盤 勝範  
築地本願寺 千田 雅寛  
気仙沼仏教会

**【団体会員】**  
京セラ株式会社(電子機器製造)  
株式会社カナメ(建築)  
大建工業株式会社 国内製造企画部(建築)  
松井建設株式会社(建設)  
住友林業ホームテック株式会社(住宅・建築事業)  
損害保険ジャパン株式会社(保険)  
第一生命保険株式会社(保険)  
大和証券株式会社法人コンサルティング部(ビジネスサポート)  
野村證券株式会社金融公共公益法人部(金融)  
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社本店金融公共法人第一部(金融)  
株式会社ストライク(M&A仲介)  
株式会社大陸旅遊(旅行)  
株式会社ビーエス観光(旅行)  
近畿日本ツーリスト株式会社(旅行)  
東武トップツアーズ株式会社(旅行)  
株式会社JTBツーリズム事業本部(旅行)  
株式会社金剛組(寺院建築)  
日本テンプルヴァン株式会社(寺院経営コンサルタント)  
株式会社TERASU(寺院サポートコンサルティング)  
株式会社アンカレッジ(寺院運営サポート・企画)  
有限会社新宿アカウンティングオフィス(経営コンサルティング)  
株式会社社縁(社寺仏閣総合リスクコンサルタント)  
8infinitey株式会社(神社仏閣の総合経営支援)  
株式会社東海大阪レンタル(イベント・レンタル)  
株式会社エコ・マイニング(環境・エネルギー)  
株式会社オメガ・コミュニケーションズ(翻訳・出版物企画・制作)  
株式会社ディー・エイ・ティ・コーポレーション(出版物企画・制作)  
ディーエムソリューションズ株式会社(物流・デザイン)  
新日本法規出版株式会社(法規図書出版)

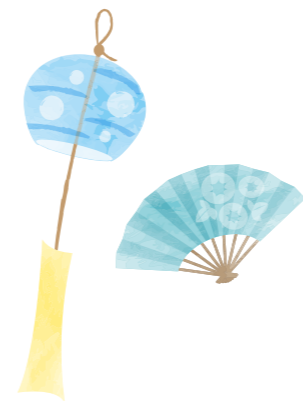


# 暑中お見舞い申し上げます

# 暑中お見舞い申し上げます

- 株式会社広済堂ネクスト（印刷・IT・WEB・求人広告・人材サービス）
- キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ株式会社（印刷・機器販売）
- 株式会社漫画家学会（漫画・紙芝居）
- 株式会社ルンビニ（保険代理店）
- 株式会社サウンドファン（音のバリアフリー開発・製造・販売）
- 株式会社大塚商会（システム機器、ソフトウェアの販売）
- 株式会社京念珠刑部（念珠製造・販売）
- 株式会社京扇堂（扇子製造・販売）
- 株式会社ダイセイ（総合商社）
- 株式会社アドレスジムキ（オフィス機器販売）
- 株式会社いせや（石材）
- 株式会社AVENUE（お寺の窓口運営・WEB制作）
- グレートインフォメーション株式会社（システム開発運営・WEB制作）
- 株式会社おぎぞ（高強度磁気食器の製造、販売）
- TERA Energy株式会社（小売電力）
- 株式会社鎌倉新書（終活支援）
- 株式会社オフィスワイズ（プロモーション企画）
- イワトリー株式会社みのはん（寺院向け業務用品通信販売）
- 株式会社エータイ（永代供養・樹木葬）
- 株式会社セルフネン（建築材料）
- 株式会社ドリム（音響機器）
- 三協美術印刷株式会社（写植・製版）
- 日本仏教看護・ビハーラ学会
- 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所
- 一般財団法人ライフプランニングセンター
- 一般財団法人100万人のクラシックライブ

- 一般社団法人LOS相談センター
- 一般社団法人仏教検定協会
- 一般社団法人PRAY for ONE
- 一般社団法人良いお寺研究会
- 全日本宗教学協会
- 全日本葬祭業協同組合
- 岩手県葬祭業協同組合
- 埼玉県葬祭業協同組合
- 東京都葬祭業協同組合
- 神奈川県葬祭業協同組合
- 岐阜県葬祭業協同組合
- 名古屋葬祭業協同組合
- 愛知県葬祭業協同組合
- 京都中央葬祭業協同組合
- 大阪葬祭業協同組合
- 福岡県葬祭業協同組合
- 長崎県葬祭業協同組合
- 一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会
- 一般社団法人日本石材産業協会
- 准秩父観音霊場三十四札所



## 【個人会員】

- 社本 公一（公認会計士）
- 龍泉寺 佐々木 誠宗（秋田県）
- 護勢寺 菅原 公宇（宮城県）
- 福聚院 伊達 廣三（宮城県）
- 慈願寺 池田 行信（栃木県）
- 東榮寺 大森 篤史（埼玉県）
- 法瑠寺 矢島 浄純（埼玉県）
- 建福寺 安野 正樹（埼玉県）
- 光明寺 石上 智康（千葉県）
- 妙定院 小林 正道（東京都）
- 浄心寺 佐藤 雅彦（東京都）
- 慶安寺 深澤 信善（東京都）
- 真照寺 堀井 隆川（東京都）
- 長専院 正本 光生（東京都）
- 廣徳寺 板坂 光明（神奈川県）
- 清水寺 久喜 和裕（神奈川県）
- 大蔵寺 佐藤 直道（神奈川県）
- 金蔵院 眞田 有快（神奈川県）
- 龍泉寺 壽山 良光（神奈川県）
- 圓滿寺 西郊 良光（神奈川県）
- 正泉寺 野澤 隆幸（神奈川県）
- 寶相院 東田 樹治（神奈川県）
- 重蓮寺 関崎 幸孝（新潟県）
- 法元寺 鈴木 義俊（山梨県）
- 玄向寺 荻須 眞教（長野県）
- 本光寺 木村 光正（静岡県）
- 観音寺 石原 峰志（愛知県）
- 寂光院 松平 實胤（愛知県）

- 太福寺 佐久間 大道（兵庫県）
- 善隆寺 杉浦 栄俊（兵庫県）
- 吉祥院 曾我 龍慶（兵庫県）
- 精明寺 疋田 哲壽（鳥取県）
- 洞光寺 池上 幸秀（鳥取県）
- 薬師院 小川 義真（鳥取県）
- 定林寺 田邊 学成（岡山県）
- 西光寺 高橋 篤法（大分県）
- 其田 寿一（青森県）
- 波邊 永（宮城県）
- 小田 卓也（千葉県）
- 鈴木 朝雄（千葉県）
- 小川 昌美（東京都）
- 北野 讓治（東京都）
- 小林 昇（東京都）
- 平 みきお（東京都）
- 鳥居 邦夫（東京都）
- 松村 一平（東京都）
- 村松 朱実（東京都）
- 天久保 貴（神奈川県）
- 君和田 茂男（神奈川県）
- 木村 匡成（神奈川県）
- 佐藤 泰之（神奈川県）
- 中村 美津江（神奈川県）
- 松田 健（神奈川県）
- 霧林 健（神奈川県）
- 山崎 忠征（和歌山県）
- 安田 容造（京都府）
- 邊見 由峰（香川県）

- 山口 展弘（福岡県）
- 井上 美和子（佐賀県）
- 塩月 光夫（宮崎県）
- 逢沢 一郎（衆議院議員）
- 石田 真敏（衆議院議員）
- 岩屋 毅（衆議院議員）
- 枝野 幸男（衆議院議員）
- 大串 博志（衆議院議員）
- 逢坂 誠二（衆議院議員）
- 加藤 勝信（衆議院議員）
- 金子 恭之（衆議院議員）
- 上川 陽子（衆議院議員）
- 小島 敏文（衆議院議員）
- 後藤 茂之（衆議院議員）
- 櫻井 周（衆議院議員）
- 佐藤 公治（衆議院議員）
- 関 芳弘（衆議院議員）
- 高市 早苗（衆議院議員）
- 橋本 岳（衆議院議員）
- 原口 一博（衆議院議員）
- 平沢 勝栄（衆議院議員）
- 細田 健一（衆議院議員）
- 堀内 詔子（衆議院議員）
- 前原 誠司（衆議院議員）
- 牧島 かれん（衆議院議員）
- 松本 謙公（衆議院議員）
- 松本 剛明（衆議院議員）
- 森山 浩行（衆議院議員）
- 盛山 正仁（衆議院議員）

- 湯原 俊二（衆議院議員）
- 浅尾 慶一郎（参議院議員）
- 伊藤 孝恵（参議院議員）
- 大塚 耕平（参議院議員）
- 片山 さつき（参議院議員）
- 片山 大介（参議院議員）
- 斎藤 嘉隆（参議院議員）
- 武見 敬三（参議院議員）
- 徳永 エリ（参議院議員）
- 福山 哲郎（参議院議員）
- 水岡 俊一（参議院議員）
- 大野 元裕（埼玉県知事）
- 早坂 義弘（東京都議会議員）
- 赤松 広隆（元衆議院議員）
- 荒井 聰（元衆議院議員）
- 大塚 高司（元衆議院議員）
- 河村 建夫（元衆議院議員）
- 左藤 章（元衆議院議員）
- 佐藤 ゆかり（元衆議院議員）
- 野田 毅（元衆議院議員）
- 三原 朝彦（元衆議院議員）
- 鈴木 寛（元参議院議員）
- 鈴木 政二（元参議院議員）
- 二之湯 智（元参議院議員）
- 白 眞勲（元参議院議員）
- 藤谷 光信（元参議院議員）

（令和6年6月30日現在）

第42回理事会報告

5月16日、本会会議室よりオンラインにて第42回理事会が開催されました。

開会にあたり、里雄康意理事長の発声により三帰依文を唱和、開会挨拶が述べられた後、理事長が議長となり議事が進行されました。

議案事項では、

- (1) 2023年度事業報告(案)
- (2) 2023年度決算(案)
- (3) 評議員会の招集及び開催について承認を求める件
- (4) 事務総局規程中改正(案)について承認を求める件

が上程され、出席理事の満場一致により承認されました。続き、報告事項では、各部より会務報告、公益目的事業が報告され終了しました。

【第42回理事会概要】

日時：令和6年5月16日午後2時  
会場：全日本仏教会会議室・オンライン会議室(ZOOMミーティング使用)  
議長：里雄康意第35期理事長  
出席理事：14名(20名中)



木村匡成(公認会計士)

第43回理事会報告

6月19日、京都・ウエスティンホテル京都にて第43回理事会が開催されました。

開会にあたり、里雄康意第35期理事長の発声により三帰依文を唱和、開会挨拶が述べられた後、里雄康意第35期理事長が第36期理事長として承認されました。



里雄康意第35期理事長

議案事項は、

- (1) 定款第22条第2項の定めによる理事長の選定について承認を求める件



池田行信第36期理事長

を上程し、(1)は和田学英理事が事務

協議事項は、  
(1) 事務総長の選定について賛同を求める件  
(2) 理事の職務担当について賛同を求める件

総長となることが賛同されました。(2)は各審議会・委員会の開催案内を理事全員へ通知し理事の任意によって各会議体へ出席可能とすることが賛同されました。

その他の事項として、日蓮宗から理事長及び事務総長の選定に関する要望書が提出され、理事長より総務財政審議会へ諮問し、精査したのち理事会へ報告することが承認されました。

【第43回理事会概要】

日時：令和6年6月19日午後3時  
会場：京都・ウエスティンホテル京都  
議長：里雄康意第35期理事長  
出席理事：14名(20名中)  
和田学英(曹洞宗・第36期事務総長)  
池田行信(浄土真宗本願寺派・第36期理事長)  
里雄康意(真宗大谷派・第35期理事長)  
戸松義晴(浄土宗・第34期理事長)  
船戸俊宏(天台宗)  
加久保範祐(真言宗智山派)  
岩脇彰信(真言宗豊山派)  
守山雄順(聖観音宗)  
一宮良範(念法真教)  
三吉廣明(東京都仏教連合会)  
軽部浩史(愛知県仏教会)  
長澤香静(一財)京都仏教会



第36期事務総局人事

【任期2024(令和6)年4月1日～2026(令和8)年3月31日】

- 事務総長 和田学英(曹洞宗)
- 総務部部長 関勝道(日蓮宗)再任
- 総務部次長 西岡慈圓(真言宗智山派)再任
- 財務部部長 小松(幸)曹洞宗)新任
- 財務部主事 小山智恵
- 社会・人権部部長 朝倉俊隆(真宗大谷派)再任
- 社会・人権部次長 古矢めぐみ(浄土宗)新任

- 花岡眞理子(公社)全日本仏教婦人連盟
- 青木晴美(公財)仏教伝道協会
- 出席監事：2名(3名中)  
平井良昌(一社)仏教情報センター)  
木村匡成(公認会計士)

第36期関西支局人事

【任期2024(令和6)年4月1日～2026(令和8)年3月31日】

- 社会・人権部部長 福田昇衍(天台宗)再任
- 広報文化部部長 楠宗紹(浄土真宗本願寺派)再任
- 広報文化部次長 平井敦夫(真言宗智山派)再任
- 国際部部長 富岡孝彰(臨済宗妙心寺派)再任
- 国際部次長 位田樹音(高野山真言宗)新任
- 退任 衣笠晃暢(曹洞宗)
- 退任 大南明子(浄土宗)
- 退任 下島章裕(高野山真言宗)
- 退任 山崎美由紀

- 支局長 中井真人(浄土真宗本願寺派)
- 次長 石井正道(真宗大谷派)
- 次長 渡邊弘文(浄土真宗本願寺派)
- 次長 玉田尚允(浄土宗)
- 次長 藤井宗治(臨済宗妙心寺派)
- 主事 御嶽隆佑(真言宗智山派)
- 主事 浅野真哉(真宗大谷派)
- 主事 法正弘恵(浄土真宗本願寺派)
- 主事 貴田大史(浄土宗)
- 主事 宮裡顕一(臨済宗妙心寺派)
- 主事 佐野雅明(真言宗智山派)
- 書記 松浦 唯(浄土真宗本願寺派)

「賛助会員」新規入会者一覧

【2024(令和6)年3月1日～2024(令和6)年6月30日】

- 株式会社金剛組
- 株式会社JTBツーリズム事業本部
- 株式会社エータイ
- ディーエムソリューションズ株式会社
- 衆議院議員 堀内詔子
- 衆議院議員 後藤茂之
- 衆議院議員 逢沢一郎
- 衆議院議員 細田健一
- 長専院 正本光生

「救済基金」寄附者一覧

【2024(令和6)年3月1日～2024(令和6)年6月30日】

- (時系列順・敬称略)
- 大阪府佛教会
- 滋賀県仏教会
- 浅草仏教会
- 気仙沼仏教会
- 埼玉桔梗会
- 東京都仏教連合会
- 静岡県仏教会
- 愛知県仏教会
- 札幌市佛教連合会

- 神奈川県仏教会
- 宗教法人真言宗豊山派福祉基金
- 真言宗智山派 神奈川教区
- 天台宗宗務庁
- 伊豆の国市仏教会
- 薬王寺
- 真言宗御室派
- 本門佛立宗
- 札幌市佛教連合会青年会
- 芝仏教会
- 板橋区仏教会
- 公益社団法人 全日本仏教婦人連盟
- 島根県仏教会
- 西都市仏教会
- 宍粟市仏教会
- 東京都荏原仏教会
- 天台真盛宗 総本山 西教寺
- 寂光院 松平實胤
- 東京都葬祭業協同組合
- 水口地区佛教会
- 本覚教会
- 田方仏教会大仁分会
- 左藤 章
- 熊本県仏教会
- 鈴木 只単
- 芝大門常念仏三縁会
- 匿名希望5件

総計 12,240,055円

# 第8回花まつりデザイン募集

応募締切  
2024年  
9月30日(月)  
まで  
※当日消印有効

## 募集要項

第7回花まつりデザインを使用したポスター・絵はがき



ポスター大賞作品(一般)



ポスター大賞作品(満12才以下)



絵はがき大賞

### 応募資格

プロ・アマチュア問わず、すべての方に応募いただけます。  
(ただし、作品採用の場合、修正や転用に応じられること)

### 応募条件

未発表のオリジナル作品で、仏教行事である「花まつり」を題材として自由に作品を描いてください。なお、作品に文字は入れないでください。  
(例:お釈迦さまに甘茶をかける場面、ご誕生をお祝いする場面、寺院の行事やイベントの場面など)

### 作品規定

素材・画材・技法は自由(デジタル作品も可)、立体物は不可  
応募する作品は、下記のサイズを参考に制作してください。(複数応募可)

#### ●募集作品サイズ●

用紙:A3サイズ以上(297mm×420mm以上)  
デジタル:300dpi以上(15MB以上、5000×7000ピクセル以上)

### 審査方法

10月に審査会を開催し、大賞作品には主催者より連絡します。  
審査についての電話やメールでの問い合わせはご遠慮ください。

### 応募方法

本会webサイトより応募用紙をダウンロードし必要事項を明記の上、1作品につき1部同封してください。作品は折り曲げずに(筒状は可)郵送してください。  
(デジタル作品もカラー出力後、郵送にて受付となります。)

#### 作品送付先・お問い合わせ

公益財団法人 全日本仏教会 広報文化部  
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2階  
TEL:03-3437-9275 FAX:03-3437-3260 E-mail:kouho@jbf.ne.jp

全日本仏教会

検索

<https://www.jbf.ne.jp>

発行人 和田学英  
発行所 公益財団法人 全日本仏教会  
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2階  
TEL:03-3437-9275 FAX:03-3437-3260  
e-mail:info@jbf.ne.jp

